

教育新時代へ！これまでの教育を大転換！

平成 31 年 4 月 17 日、柴山昌彦文部科学大臣は、初等中等教育の現状及び課題を踏まえ、第 10 期中央教育審議会（以下中教審）に「新しい時代の初等中等教育の在り方」について諮問を行った。本諮問には全日教連がこれまでの要望内容に関連する項目が多く含まれており、今後の議論を注視する。

諮問の概要および全日教連の要望（諮問内容は全日教連要約・抜粋）

諮問内容	諮問に関連する全日教連の主な要望
1. 義務教育 ○ <u>義務教育 9 年間を見通した学級担任制と教科担任制</u> ○ <u>年間授業時数や標準的な授業時間の見直し 等</u>	教科担任制の導入に際しては基礎定数の改善が必要！ 平成 20 年中教審答申「過当たり 28 コマが限度」を鑑み年間総授業時数の削減を！
2. 高等学校教育 ○ <u>普通科改革・STEAM 教育 等</u>	資質・能力の向上のため、自主的・自発的な研修活動を推進する制度の充実を！ 外国人児童生徒・保護者への対応のために専門人材の配置すること！
3. 外国人児童生徒への教育 ○ <u>指導体制の確保</u> ○ <u>多文化共生の考え方 等</u>	教員免許更新制の負担感を減らし研修内容と制度の改善を行うこと！
4. 新時代の教師や教育環境の整備 ○ <u>免許制度や教員の養成・採用・研修・勤務環境</u> ○ <u>教員免許更新制の実質化</u> ○ <u>幼児教育の質の向上</u> ○ <u>いじめの重大事態、虐待事案に適切に対応</u> ○ <u>教職員や専門人材の配置、ICT 環境や先端技術の活用 等</u>	幼児教育センターの設置及び幼児教育アドバイザーの配置を行うこと！ 児童相談所の機能強化や社会的養育環境の充実を図ること！ ICT 環境整備については、地財措置されている予算（単年度 1,805 億円）の確実な執行を！

新時代の潮流に全日教連の要望を反映させていこう！

※ 本諮問の詳細につきましては、右のQRコードや下のURLから閲覧できます。是非御覧ください。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm



文部科学省は「第 3 期教育振興計画」や「柴山・学びの革新プラン」で今後の教育の方向性を示した。本諮問は、これらを踏まえ、子供たちが豊かな創造性を備え、未来社会の創り手として生き抜いていくために必要な「新しい時代の初等中等教育の在り方」について、学識経験者に専門的見解を求めたものである。

内容としては、総括的に現在の教育課題の解決策を探るのではなく、AI が発達する等、予測不可能な未来社会に対して、持続可能な学校指導・運営体制の在り方を問うものである。具体的には、小中学校 9 年間を見通した教員の再配置や、小学校における教科担任制等のために、企業等で活躍する専門人材が学校教育に携わることができるようにする免許法の改正等、いずれもこれまでの学校教育の在り方そのものを転換する可能性がある諮問となっている。

全日教連としても、これまで文部科学省や国会議員に対して、本諮問内にある「教科担任制の導入」や「児童虐待への対応」等、俯瞰的な視点から、これからの教育の方向性について具体的な提案してきたところである。

今後も令和の時代を生きる子供たちの為に必要な施策が推進されるよう、本諮問を受けた中教審の議論の方向性を注視するとともに、現場の状況や意見を踏まえた具体的な要望活動を積極的に展開していく。